

農業・工業・商業・その他

(6次産業化)

わかったこと・かんそう

栽培が成功して、
目標が達成すればいいなと思いましたが、あきらめずに、
かんばりてほしいです。

おうちの人から

6次産業と呼ばれるんだね。
成功するといいね。

仙台沿岸部で養液栽培

蒲生 被災農家ら事業化

東日本大震災の津波で大きな被害を受けた仙台市沿岸部の農地で、元の被災農家らが会社を興し、来春から野菜の大規模な養液栽培事業に乗り出す。ビニールハウス4棟(計約2・8畝)を整備。トマトと葉物野菜、イチゴを組み合わせて通年出荷を可能にし、安定した経営体制の確立を目指す。

加工・流通も手掛ける6次産業化に取り組む農業法人の経営者ら5人が、株式会社「みちさき」を設立。宮城野区蒲生で借り受けた被災農地約4・3畝にハウスを建設する。塩害の影響を受けない養液栽培を採用し、冬場のトマト、ホウレンソウなどを中心に生産する。市内では珍しいイチゴ栽培にも挑戦する。



トマト・葉物・イチゴ 大規模生産 通年出荷へ

事業費は約14億円。このMが経営管理面で協力する。うち国と県、市から補助金。計約11億3000万円が交付される。

生産開始3年目の2015年度に年間生産量約340万、売上高約3億円を達成し、単年度黒字化するのを目指している。収益性が目標。収穫や選果を行う従業員として、年間延べ60人の雇用を見込む。

農家や大手企業、市などが参加し、11年12月に発足した「仙台東部地域6次産業研究会」での検討を真摯に受け止めた。被災地から持続的な産業研究を推進し、地域の活性化に貢献したい」と話している。

市の「農と食のフロントエリア推進特区」を申請し、税制面の優遇措置なども受ける見通し。市東部農業復興室は「復興計画を体現するプロジェクトだ。収益性の高い都市型農業の実現に向け、できる限り支援したい」と期待する。